



令和5年度 幼児教育研修（乳児・3歳未満児保育）

「0・1・2歳児の育ちと保育者の関わりについて」

日時：令和5年9月15日（金）第1回 15：00～17：00

第2回 17：30～19：30

会場：足立区生涯学習センター

講師：東京家政大学ナースリールーム 施設長 工藤 佳代子 氏

## 子どもを善く観ることは

～止める？ 止めない？ どんな声をかける？～



### エピソード①

#### お家から車の玩具を持ってきちゃった

大好きなごみ収集車の車を手に持って登園する。  
なかなか保育室に入室しようとしなかった。



保育園に玩具をもってきてはいけないことを  
自分で気がついているから入室しないのだな。

『靴箱を駐車場にして、帰りまで停めて  
おいたらどうかな？』

### 保育者の子ども理解

この子のお迎えはファミリーサポートさん。毎日、  
ミニカーのごみ収集車を走らせながら、帰り道を  
1時間かけて歩いていることを知っている。  
子どもにとっての楽しみを**大事**にしてあげたい。



### ポイント

子どもにとって、どんな意味があるか  
を考える。



### エピソード②

#### 大好きな車の靴下だから離したくない

手に持ってみたり、手にはめてみたり。  
その後、**全部で8枚の靴下**を重ねて履いてみる  
ことにした。



でも、重ねて履くと、きつくて靴が履け  
ないのか。  
1枚脱いで…。2枚脱いで…。

### 保育者の子ども理解

子どもが自分でやってみて**気付く**ことがある。  
子どもの学ぶ機会を**見守**っていきたい。



### ポイント

子どもが**試す**、**考える時間**を保障する。



かばんをたくさん使いたい！

何を楽しんで  
いるのかな？



なるほど。  
～したいのね。



布バックに水をためたい！

子ども**一人一人を尊重**することは、子どもの**自我と向き合う**こと  
子どものやっていることには**必ず理由**がある

- 子どもの思いに寄り添う（知ろうとする）
- 結論を出し急がない
- 大人のものさしで捉えない

# 子どもの見方を変えよう

～保育者が変わろう～

## いやいや期の子どもたち

ちがう

何でも「ダメ」「ちがう」って言うけど、どうしたいのかわからない。

子どもは、赤ちゃんの時から自分の思いを伝えている。

「ダメ」「ちがう」の他に伝えたい言葉が言えない。

思い通りにならないこと。

自分の意思を表現できるようになった**成長**と捉える。

伝えたい!話したい! ことがいっぱいあると**理解**する。

取り合いが子どもの育ちに**どんな意味があるか**を考える。

子どもが**一人の人として自分らしく生きていくための土台をつくる**ことが大事。

そのために、保育者は、

「ダメ」「ちがう」のあとにつづく言葉を考える。

子ども自身が**選択**する、**考える**、**いやと主張**できる**主体性**を大事にする。

けんかや取り合いは子どもの育ちにとって**学び**である。

## 保護者支援

- 保護者の大変さに共感する。
- 子どもがやっていることを保育者が説明してあげる。
- 子どもの気持ちを代弁してあげる。

### 保育者にできること

#### 記録をつける

- \* 子どもへの理解が深まる。
- \* 自分自身の保育を振り返ることができる。
- \* 自分の課題が見えてくる。

#### チームで取り組む

- \* 担任だからできることがある。
- \* クラスを超えてできることがある。
- \* 子どもにとってどうなのかを園全体で考える。

**エピソードをもっていることが、  
保育者の最大の財産**

### 研修生の報告書より ～ 1回目 ～

保育者が子どもにどんな思いで関わるかによって、子どもの育ちは変わってくる。自分の保育を振り返ることが大切であると学んだ。

大人の都合を押し付けたりするのではなく、子どもの発見や経験を大切にしていきたいと思った。先走って制御せず、子どもの姿を見守っていきたい。

### ～ 2回目 ～

「あなたが大事に思っているものは私も大事だよ。」という思いで、いつも子どもに接することを改めて考え直し、実践していきたいと思った。

大人が考えるルールやパターンに当てはめるようにして子どもを観ていくのではなく、子ども一人一人を大切な個人として考えて、意図や思いを汲み取ってかかわることが大切だと気付いた。